

キラリ★話題の「ひと」



そうか
荒井 宗佳さん
(金屋仲町)

○プロフィール

(財)裏千家今日庵正教授／(一社)茶道裏千家淡交会参事補・栃木県支部参与／佐野市茶華道協会副会長・茶道部長／裏千家淡交会栃木県学校茶道連絡協議会監事

母

親が茶道の教授者だったという荒井さん。「子どもの頃からお茶がとて身近で暮らしに溶け込んでいたため、特別なことと感じたことはなく、気付くとお茶は自身の一部となっていました」

そんな環境の中で、お茶を本格的に学び始めたのは20歳の頃。人間関係などで悩んだ時も、やめようと思ったことはなかったそうで、「きつと、お茶の魅力の方が勝っていたからでしょう」とほほ笑む。

荒井さんが学んだ時代は娯楽が少なく、お茶やお花が受け入れやすかったそうですが、今は日常生活が急速に変化し、和室空間がほとんどないため畳もなく、若い人たちは正座が苦手な人が多く、現在はお茶会もテーブルや椅子を使った立礼式が日常的になっているそうです。

そんな状況に強い危機感を覚え、あえてお茶に少しでも触れ合うチャンスを作っていきたいという思いで「お茶を全く知らない若い人たちに伝えていくことが大切だと感じ、小中高大学生と全ての年代の学生を指導しています。お菓子が好きだからでも、きっかけは何かから入っても良いのです。お茶を知らないままになってしまわないように、できることをしたい」と思っています。

また、お茶を通して人の思いやりや感謝の心、そして天明鋳物や人間国宝田村耕一作品のすばらしさを伝え、茶の湯を知ることで佐野を知り、日本を知るお手伝いがしたいと話されます。

「初めて茶の湯に触れた子どもたちが、お茶のおいしさや千利休の『和敬静寂』の言葉に感動してくれること、各年代に生きる人たちが、その時々茶の湯を楽しんでくれると嬉しいです」

今日もまた、「誰かに一盃を点てしあわせ、自分のための一盃のしあわせ」を実感する日々です。

(市民記者 永倉文子)



▲唐澤山献茶祭の様子

市長からのメッセージ

暦の上では間もなく立春を迎えます。まだまだ寒い日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしですか。

1月8日(日)には、市内3カ所で二十歳のつどいを開催しました。成人年齢の引き下げにより「成人式」から「二十歳のつどい」に名称を変更して初めての開催となりましたが、約1100人の方が二十歳を迎えられました。二十歳を迎えられた皆さまの力をいかに発揮して、ふるさと「佐野市」の発展のため、ご尽力いただくことを期待します。

さて、今年は条例2つの制定を進めます。1つ目に、佐野市シニア地域デビュー条例です。シニア世代が生涯にわたって元気に活躍しつづけるためには、現役を引退してから時間に地域で自分の能力や経験を生かした仕事を始めたり、趣味の活動を始めたり、ボランティア活動を始めるなど、社会とのつながりをさまざまな形で持ち続けていくことが大切となります。そこで、シニア世代が地域活動などを始める「地域デビュー」を進めていくことで、シニア世代が生きがいをもって地域で生き生きと生活できる社会を実現するため、条例を制定します。2つ目に、佐野市健康長寿推進条例です。健康は、全ての市民が生涯を通じて生き生きと暮らすための基本であり、生きがいを持ち、豊かな日常生活を送るための基盤となります。そこで、本市の健康づくりに関する基本理念を明らかにし、地域一体となって健康づくりを推進することで、健康長寿を実現するため、条例を制定します。2つの条例を制定し、市民の皆さまに浸透するようしっかりと進めてまいります。

金子 裕



葛生化石館へ行きませんか？

葛

生化石館に行ってきました。葛生地域には石灰岩地帯が広がっています。石灰岩はかつて海の中で繁栄した生き物が作り出したものだそうです。そして、石灰岩の中からは、たくさんの化石が産出されているそうです。

化石館の中には小さな生き物から大きな哺乳類まで、葛生地域から産出されたものをはじめ、たくさんの化石が展示されています。今は日本にすんでいない動物の化石も発見され、展示されています。以前小中学生が協力して作ったという、ペルム紀のジオラマもありました。時々新種も発見されていて、新種の化石と一緒に、詳しく分かりやすい説明文もありました。また、石灰岩が現代の生活にどのように利用されているのかも展示されています。葛生地域の特産である石灰とともに残っている、貴重な化石に触れられる化石館です。

(市民記者 尾島民江)



▲展示の様子

佐野市消防団表彰式が開催されました

令

和4年度佐野市消防団表彰式が、市文化会館で1月15日(日)に開催されました。同表彰式は、永年にわたり市民の安全に尽くされた消防団員などの功労者の顕彰と、士気高揚を目的に行われているものです。

オープニングアトラクションとして、佐野鷹工業組合による「梯子乗り演技」が披露された後、表彰式が行われました。式典の開始にあたり金子市長は「長きにわたり本市消防団の発展に大きく寄与され、また地域防災の充実・強化にご尽力いただき心から感謝申し上げます」と感謝の言葉を述べました。



▲表彰式の様子



▲梯子乗り演技の様子

佐野弁
ばんでい

“ッセ・ッザ(ラ)ッセ”はていねいな意
軽い尊敬の意がある ー敬語その3ー

かつて老人たちは、目上の人などと話すときには、よく軽い方言敬語を使っていました。軽い方言敬語とは「ッセ」という尊敬の助動詞で動詞のあとに付けます。この「ッセ」については、平成21年10月1日号で「ッセ・ヤンシヨ」には軽い敬意がある」に一部掲載しました。ところで、飲んでくださいねは、佐野弁で「飲まッセナ」といいます。「ッセ」の使われている会話をみてみましょう。

「ココントコ(最近)しばらくメーナカタ(見えなかった)ね。タマニヤー(めったにないことだから)寄ってガッセナ(くださいよ)」

「ッザ(ラ)ッセ」が、「見る」・「来る」・「起きる」などに接続すると、動詞が独特な形に変化します。佐野では今でも使っており、めずらしい方言といっているでしょう。

まず、「見る」に「ッザ(ラ)ッセ」が接続する例文を見てみましょう。「秋になったんで山一帯がうつくしい紅葉ですよ。ほら！ 見ラッセナ(見てくださいよ)」見ラッセは、見サッセともいいます。

「来る」に「ッラッセ」が接続する例文を見てみましょう。「暇なときニヤー、またアスビ(遊び)にでも出て来ラッセナ(お出でください)」来ラッセナは、来ラッセナともいいます。

次に、「起きる」に「ッラッセ」が接続する例文を見てみましょう。「間もなく出発の時間ですよ。早く起きラッセナ(起きてくださいよ)」

(市民記者 森下喜一)

